ねぎ

○長ねぎ栽培について

病害虫が発生しやすい時期となります。圃場を確認しながら適期防除に努めましょう。

【害虫】

タネバエ・タマネギバエ

６月にかけて発生量が多くなります。定植時の薬効が切れる頃ですので、早期に防除を行いましょう。

例）スタークル灌注で約30日効くと考えれば、定植後25日くらいで粒剤による２回目の防除が必要。
（ねぎに薬剤が吸収されるまでの時間を考慮します）

［発生しやすい条件］

・定植から30日以上経過（追加防除が遅れた）
・生堆肥（完熟していない）の投入
・ねぎの連作(残渣がすき込まれた、昨年も発生したなど)

防除対策（ネギハモグリバエ・ネギアザミウマと同時防除薬剤）

ダントツ粒剤　３～６kg／10ａ

【病害】

今後の防除目標

①　６月に入ると、軟腐病・白絹病の防除時期となります。
・６月上旬 → 夏 ね ぎ　１回目防除
・６月下旬 → 夏 ね ぎ　２回目防除
秋冬ねぎ　１回目防除

②　６月中旬（梅雨入り前）のべと病予防を忘れずに!!
※近年はさび病も見られますので要注意。

きゃべつ

○きゃべつ栽培について

・アオムシ・コナガの発生に注意してください。
・５月中旬から６月上旬にかけて、気温が上昇してくると発生量が増えてきます。
・定植時に処理した薬効も切れてきますので、早めの防除を行いましょう。

５月中旬頃 → プレバソンフロアブル５　2,000倍液
５月下旬頃 → ジャックポット顆粒水和剤　1,000倍液
６月上旬頃 → フェニックス顆粒水和剤　2,000倍液

アスパラガス

○アスパラガス栽培について

・定植をするために畑の準備をしましょう。堆肥を１反歩あたり２ｔの散布を行いましょう。元肥は窒素成分で１反歩あたり20ｋｇとします。
・根域を確保するために高畝にし、マルチを張りましょう。
・露地アスパラでは、春芽収穫後に立茎肥として、窒素成分で１反歩あたり10kgの追肥を行いましょう。

みょうが

○みょうが栽培について

・高温対策として敷きわらは厚めにしきましょう。また、根茎腐敗苗対策として５月下旬から６月上旬にかけて１回目のユニフォーム粒剤の散布をお願いします。
・ユニフォーム粒剤の散布は雨降り前がおすすめです。なお10ａ当たりの散布量は、18kgです。

牡牛座（4・20～5・20）　趣味や習い事を楽しむと、新たな発見や驚きがあるかも。おいしいお茶や料理を堪能するのにも向いています